



かわら版わーかーずーぶ

～北陸信越地方版～

第1号

かわら版の発行にあたって・・・

～発行者の決意と覚悟～

『沢山の気付きと日々の実感が溢れている週報を皆で共有する事から始めたい・・・』そういった漠然とした「何かを伝え合いたい」という思いから、このかわら版を発行するに至りました。

この間「複数の人たちが心をあわせて、同じ目的や共通の利益を守る為に力をあわせて事にあたる」協同という理念を、継続して共感し合っていく事の難しさを日々感じています。実際に長い間、人に雇われて働いてきた人にとって、協同労働という働き方は戸惑いと困難の連続だろうし、不安が不満に変わっていく過程を何度も見聞きしてきました。その度に、**私たちは「共感力」が問われて続けていると強く実感しています。**



愚痴や不満に思ふ事を「どうすれば？」に変える前向きな発想力・・・誰かのせいにならずに自分の役割は何か？を考えられる自立性・・・**皆が皆、自分事として考えていく意識の改革**が、今求められる全組員経営の本質ではないでしょうか？

立場に関係なく発言できる機会、自分の夢や理想の実現、そしてその苦勞を共にしてくれる仲間が存在・・・そんな素晴らしいこの働き方の価値に気付き、**双方に共感し合えるひとつのツール**として活用されればと願っています。

皆さんの週報、月のまとめ、各会議や集会の報告から、現場で日々何を感じているのか？どういった気付きがあったのか？そういった**貴重な価値を共有していく**ところから始めていきたいと思っています。また、これまでの各週報へのフィードバックについても、このかわら版を通じて不定期にはなりますが、お伝えしていければと考えています。

これから自らの首を絞める不安、厳しい意見や批判を受けとめていく覚悟と決意をこのかわら版に込めて・・・

北陸信越事業本部
事務局長 小椋 真一

ブロック戦略会議 9月1日(土)

於：富山ぼびー 富山分室

拡大五役会議の名称を改め、ブロック全体の戦略を練り合う場として、事業本部三役、エリアマネージャー、全国事務局員が集い、月に1度会議を開催しています。

今回の会議では、待ったなしの経営改革に向けて「**総務経理センターの業務改革**」と「**全組員経営の完全実現**」の大きく2つの点を10月の下半期以降に重点的に取り組んでいく事を確認しました。特に原価率100%超過現場の現状について「協同労働からかけ離れている現実」といった厳しい意見も含めて、年内には一定の目途をつけて、改革に臨む事を確認しました。その他、下半期のブロック戦略として以下の点を共有しています。

・全ての事業所・現場が総合福祉拠点づくりへ向かう
現在、各現場で関わっている分野の「縦割り専門領域」を超えて「地域まるごと」を意識して取り組んでいく
⇒FECも複合化も社会連帯経営も、こういった意識から始まる!!そして、これらの取り組みは市民との関係性からしか出発しないのだ!!(守本)

⇒まずは「砺波市(富山)」「松本市・安曇野市:中信(長野)」「新潟市(新潟)」の3か所をモデル地域に指定し、構想を描き、具体化していくところから突破口を見出し、全体に広げていく事を確認し合う

・地域の最も困難な事態に対して「公的訓練・就労事業」制度の提案から突破口を拓いていく

⇒「生活保護・生活困窮」「障がい児デイ」「廃校・放棄地」を共通の焦点に「コミュニティ就労」を実現していく事が協同労働の社会化に繋がる!!(守本)

⇒それ以前に、これらの制度や実情を皆で共有・学習し、ニーズを実感し合う場が必要じゃないか?(小椋)

団会議や様々な会議の中でも、こういった内容について議論したり、どう感じるのか?など「**まずは話し合いを始める事**」に繋がれば・・・と思っています。

また、皆さんがより理解を深める場として10月19日～20日にブロック所長会議(越後湯沢)を予定しています。多くの方の積極的な参加を呼び掛けます(別途案内)!!

全組員経営の発祥とも言える「清掃・ビルメンテナンス等の建物総合管理」から

新たな仕事おこし・総合福祉拠点構想の実現への道を探ろう!



ワーカーズコープの原点である「清掃の仕事」が子育てや福祉部門のファンドとなり切れていない現実を、もう一度見つめ直していこうという本部提起を受けて、事業本部でもそれぞれの現場の理解や実感をどうリンクさせていけるのか?構想を練る過程で見えてきたのは、公共施設運営の指定管理を受けていながら、清掃や設備の仕事を外注している現実や、そもそも労協ブランドそのものを知らない組合員が多い現実に気付かされました。そういった事実を受けて・・・

- ① 全ての働く事と生きる事に困難を抱える人の自立と就労に正面から向き合う挑戦とこの清掃との結節点を見出していく実践
- ② ワーカーズコープの清掃現場で受け入れた若者が成長する姿と、この社会の教育や労働の有り様を皆で問い直す実践
- ③ 国際協同組合年の今、協同組合間提携の実践から「協同組合の社会的な意義を問い直す」「協同組合の社会化」に結ぶ実践

以上3点を方針の軸に据えて、各地域で取り組みが進んでいくよう、今後プロジェクトや研修会を実施する予定になっています。

責任者会議に出席。他の児童館も小学生の利用が減る事を想定して、幼児イベントの企画を考えていた。また、自主事業として企画している NP 講座や BP 講座はとても魅力ある事業で、自前で講座を開く事ができるのはとても強みになっていると感じた。

→ 地域のニーズに応えようと模索する事がまずはスタートライン。でも、もうひとつ大切なのが、自分たちではない地域の人たちを巻き込んで根付かせていく事？あくまでも「つなぎ役」として力を発揮していけると、それが強みになっていき、仕事おこしにも繋がるような気がしました・・・

週報からの気付き・・・



児童館に来所する、ある高校男児を「気になる子」として見守ってきたが、学校中退を考えているという相談を受けた。話をする中で、彼の考えを受け入れつつ様々な「道」を提示し、彼が道を決めるまでサポートをしていくつもりだが、その後の気付きが「後悔」にならない事を強く望む。

→ 児童館の職員は、彼の悩みには寄り添えても、答えを出してあげる事は出来ない・・・その人の人生の決定権は本人にあるんですね・・・たとえそれが結果、後悔になったとしても、本人が決めた事への「後悔」はきっとないはず？と信じて見守っていきたいですね・・・

過去に、警察にお世話になった中学生と高校生が児童館に来館した。話を聴くと、自宅謹慎になって学校には行っておらず、停学と同じ状況になっている。とにかく話を聞いて欲しいという気持ちがあるので、受け入れながら指導するべきことはきちんと伝えていきたい。また、悩みを抱えていた母親から「子どもが小さい時は子育て支援センターで悩みを聞いてもらえるが、小学校に入ると悩みを聞いてくれる場がない」と言っていた。「児童館にいつでもどうぞ」と言葉をかけて見送ったが、孫についてのば相談もあるのが現状だ。

→ 学校という「場」を失った彼らにとって、家以外行き場がなくなって孤立する社会の縮図が浮かんできました・・・その中で彼らにとって児童館は、近くも遠くもない「程よい関係性を保つ」唯一の場になっているんでしょうね・・・彼らと地域とのつなぎ役としてこれからも見守って欲しいと願う一方で、18歳になった後の仕組みがやっぱり必要な気がしました。子育てに悩んでいるお母さんの件も含めて、そろそろ地域の結集を力に変える時が来たのでは！？

1 つの児童館で問題になっていることを全員で共有し考えようということになり、団会議で時間をとった。子どもの支援をし、親のケアまでしている職員が、一番傷つき悩んでいるのに、職員の心のケアをする機関やシステムというのは何もないのだろうか？（中略）少ない職員だけでなんでもやっしまおうとすると、疲れ果ててしまい長続きしないが、地域の方や同じように子育て支援している方たちの力をお借りして、新しい関係性を積極的に作っていこうと思う。

→ ケアの仕事は何よりも自分自身のケアが大切だったりしますよね・・・その人の為に・・・という意識が、自然とケアを密室化してしまい、双方がうまくいかないというケースもよく見聞します。「人との関わりをコーディネートする力」が今、本当に求められるニーズなのかもしれませんね・・・

協同組合まつりの会議に事業所をこえてエリアの組合員が集まった。今年度になってから顔の見える関係ができ、お互いの仕事内容が見えるようになってきた。そこから仕事が広がる可能性も見えてきている。いかに仕組みを作っていくかが今後の課題である。

→ なかなか事業所をこえて皆が集まる機会が持てない中で「協同組合まつり」というツールをきっかけにして顔を合わせてみたら、以外と良かったね・・・みたいな感じでしょうか？事業所の総合化とか複合化って、案外こういう機会づくりがきっかけになったりするのかもしれないね・・・

編集後記

初めてのかわら版は文字・文字・文字だらけ・・・ほろ苦いデビュー作となってしまった。

文章を書く事も大変だと思っていたが、校正や編集の作業はもっとセンスが問われる事を、改めて思い知った・・・次はもっとイラストや写真を使って「気」を引けるよう頑張ろう・・・

